

インフォーマー・ショウ サーキュラー no. 25

1976年12月

目 次

I	役員選挙の結果について.....	1
II	第10回大会の御案内.....	1
III	DGDの編集について.....	2
IV	DGD投稿の際のお願い.....	3
V	単行本委員会よりの報告.....	4
VI	「受精の生物学」の予約販売についてのお知らせ.....	4
VII	国際発生生物学会議についてのお知らせ.....	5
VIII	会 員 異 動.....	5

日本発生生物学会

名古屋市千種区不老町 (〒464)

名古屋大学理学部生物学教室内

事務局よりのおねがい

1. 会費納入のお願い

学会の会計が諸物価の値上り、会費滞納などのため大変苦しくなっています。会費の納入に御協力下さい。なお会費は前納制ですので、昭和52年度会費未納の会員も至急御納入下さいますよう、お願い致します。封筒に「前金切れ」と捺印があるのは、昭和52年度会費未納を意味します。会費は同封赤色振替用紙にてお払い込み下さい。念のため、年間会費は昭和51年度まで4,500円、昭和52年度は6,000円です。

加入者名 日本発生物学会 口座番号 名古屋 42801

2. 現在DGDの基金を募集中です（サーキュラーNo. 22 参照）

1 口 1,000円（1人何口でも可）

払込先 郵便振替名古屋 42801 日本発生物学会
（振替用紙の裏面に“DGD基金”と説明して下さい）

3. サーキュラーへの投稿おねがい

学会員相互の交流のためいろいろな話題をおよせ下さい。学問上のこと（たとえば、意見の交流を求める話題の提供、トピックスの紹介、国際会議の様子、など）、研究室の紹介、学会への意見などいろいろあると思います。ふるって投稿して下さい。

なお、原稿は事務局庶務幹事、あてお送り下されば、幸いです。

インスタント人工海水

アクアマリン

姉妹品

◇ ボースアクアマリン（海水魚淡水魚同時飼育剤）アクアマリンM（人口海水用添加液）アクアマリンK（海藻育成液）その他

八洲薬品株式会社 水産事業部

大阪市西区京町堀1丁目145 TEL 大阪(06) 441-3751(代)

I 役員選挙の結果について

(1) 第5回会長選挙結果

11月5日〆切った第一次投票で過半数を越える得票者がなかったため、11月30日〆切で第二次投票が行われ、団勝磨氏が新会長に決まりました。結果は下記の通りです。(投票総数 107)

当 選 団 勝 磨
次 点 岡 田 節 人

(2) 第5回運営委員選挙結果

11月11日開票の結果、次の方々が新運営委員に決まりました。(50音順)(投票総数 137)

江 上 信 雄 (東大・理・動)
江 口 吾 朗 (名大・理・分子生物)
大 西 英 爾 (名大・理・生)
岡 田 節 人 (京大・理・生物物理)
加 藤 淑 裕 (三菱化成生命科学研)
金 谷 晴 夫 (東大・海洋研)
黒 田 行 昭 (国立遺伝研)
酒 井 彦 一 (東大・理・生化)
竹 内 郁 夫 (京大・理・植)
古 谷 雅 樹 (東大・理・植)
山 名 清 隆 (九大・理・動)
米 田 満 樹 (京大・理・動)
渡 辺 浩 (東京教育大・理・臨海実)
次 点 岡 崎 嘉 代 (東京都立大・理・生)

(第5回選挙管理委員会)

II 第10回大会の御案内

日本発生生物学会第10回大会は、昭和52年5月27日(金)、28日(土)の2日間、三菱化成生命科学研究所(東京都町田市南大谷11号)で開かれます。一般講演の締切は、3月12日(土)を予定していますが、他に次の特別企画を考えています。

シンポジウム(仮題)

“Programmed Sequential Gene Expression”

世話人：山名清隆(九大)、加藤淑裕(三菱化成生科研)

ワークショップ

(1) 発生系に於ける細胞周期解析の方法と技術

オーガナイザー 団 勝 磨 (都立大・名誉教授)

(2) 器官培養法と細胞分化

オーガナイザー 水 野 丈 夫 (東 大)

参加方法, その他の詳しいことは, 次回のサーキュラーでお知らせ致します。

大会準備委員長 加 藤 淑 裕

(三菱化成生命科学研究所)
発生生物学研究室

III DGDの編集について

12月15日, 名古屋市愛知会館にて1976年度の第2回のDGD編集委員会を開きました。委員9名(外人委員を除く)中8名, 小嶋編集幹事, 石母田学会会計幹事が出席。その内容を報告します。

- (1) 岡田主幹および小嶋幹事より1976年度の事業, 会計について報告。12月15日現在で1976年度において送付されてきた原稿総数は75篇(1975年度は47篇), このうち51篇の受理がまわっている。年間4冊刊行の計画で編集を行ってきたが, 外国人寄稿者の増加による校正のおくれ, 掲載論文の増加による印刷のおくれがあり, vol. 18, No. 3 (17論文を掲載)を近く完成, vol. 18, No. 4 (19論文を掲載)は来年1月に完成となった現状を報告。なお, vol. 19, No. 1 (9論文を掲載)はすでに印刷に回付された。1976年の編集経費として1,850,000円が予算経上されているがこの範囲で事業を行なうことができた。
- (2) 学会に提出すべき1977年度予算案を検討した。第19巻として4冊計450頁, 寄稿される論文予測数を約65篇として予算を立案。雑誌印刷費として頁あたり8.5%の値上り, 編集局の諸事務用品, 印刷物などの更新の必要, その他のため1976年度の15%程度の予算の増が必要である。
- (3) vol. 18, No. 3以後文献引用のスタイル, 印刷面積などを変更したが, このことは“はさみこみ”として公示してきた。vol. 18, No. 3以後, このことを裏表紙のNotice to Authorsに正式に組入れるので, この機会にその全項目について検討を加えた。その主要な点は別記する。
- (4) 1978年以後の将来計画について論議した。その主な内容は, 本学会創設以来, 小嶋幹事は8年にわたって尽力されており, 絶大なる奉仕をお願いしているのでその交替を考えるべき時期ではないか, また名古屋における印刷はEmbryologiaとしての創刊以来続けているのだが, 一度検討する時期にきているのではないか, という点である。その方向への具体化について岡田主幹が中心となって可能性を研究することになっている。

以上

(DGD編集主幹 岡田節人記)

IV DGDの投稿の際のお願い

- 1) 今後、必要別刷数は投稿の節に知らせて頂く必要はありません。印刷所から校正が届く際にその第1頁に示して下さい。
- 2) 印刷面積の増大に伴ない、無料印刷許容頁数は10頁になっています。
- 3) 論文は、オリジナルの他、2部のコピーをかならず送って下さい。
- 4) 写真について、従来は3セットのうちの1つを“unmount”として指定していましたが、全部マウントして下さい。そのうち、印刷に使用することを希望されるものを“original”と明記して下さい。なお、前号でも述べておきましたが、写真を厚い台紙にマウントしないようお願いいたします。
- 5) 写真中の矢印、文字などは従来、透明紙の上に鉛筆で記するよう指定してきましたが、今後は著者の方で墨入れをして下さい。
- 6) DGDの印刷面積は142×204mmです。図の製作に際して配慮して下さい。
- 7) “References”は著者名のアルファベット順に並べ番号を付して下さい。論文タイトルは不要です。テキストへの引用は原則として番号で願います。いくらかの論文が一括して引用される場合は番号の若いものから順に並べて下さい。論文の発表年代の順に並べられる方が時にあります。
- 8) 図を含め原稿は原則として返却しません。返却必要なものは原稿を提出される際にその旨を明示して下さい。
- 9) 従来原稿は英、仏、独文であること、としてきましたが、今後は「原稿は英文とする。但し仏文、独文のものも拒否しない」というように変更します。
- 10) 論文の最終稿（reviewersによる審査が完全に終了したもの）が編集局に到着以後、おそくとも4カ月以内に印刷発刊することを雑誌表紙裏に明記し、編集者としてその実行に努めます。
- 11) 原稿が編集主幹に届いてから約1カ月で著者宛に受理の可否が通知出来るのを原則とすることを明記します。但し、これはあくまで原則であり、reviewersの都合、内容の如何によつてこれ以上長期にわたるも止むを得ないことを御了承下さい。いうまでもありませんが、これは受理の可否までの期間であり、改正、再審査などに要する期間を含みません。
- 12) Notice to Authorsには明記してありませんが、以下の点を御協力下さい。
 - a) 論文第1頁は、タイトル、所属のあとアブストラクトに続ける。以下、ずっと続けてタイプして頂ければよく、Results, Discussionなどのセクションごとに新しい頁を使わないで下さい。但し、Referencesは別紙から始めて下さい。これは、編集局で文献の本文中への引用をチェックする作業を助けることとなります。
 - b) 特別にタイトル・ページは不要です。但し、次の項目を記した別紙を付して頂くと非常に便利です。(イ)ランニング・タイトル(英文)、(ロ)校正の送り先、(ハ)テキスト、表、図などの数(ロ、ハは日本語)。

会員各位の絶大なる支持により、DGDは原稿数も増加の一途を辿り規模が大ききな事業になりつゝあります。国際的にも一応の定着した地位を占めつゝあるように思われますが、一層の発展へ努力したいと考えます。以上の諸改正はある点では執筆者に従来より負担をおかけすることにもなりますが、同時に編集者としては一層、確実かつ速やかな刊行にむけての考慮のある面も御了解頂き、今後ますます協力下さるようお願いいたします。

(DGD編集主幹 岡田節人記)

V 単行本委員会よりの報告

12月4日に単行本編集委員会を京都大学理学部動植物学教室会議室で開きました。同委員会より次のことを報告いたします。

- ① 発生生物学会編集の単行本第5集「受精の生物学」は金谷晴夫・毛利秀雄両氏の編集業務をおわり2月に岩波書店から刊行される予定です。
- ② 第6集「変態の生物学」は日高敏隆氏が編集にあたられ、現在あらかた原稿があつまっております。
- ③ 第7集は「発生現象における分子識別(仮題)」とし、岡田節人・堀田凱樹・金谷晴夫の3氏が編集にあたる予定です。
- ④ 1977年から委員長は金谷晴夫氏にかわって日高敏隆氏が就任します(新委員はまだ確定していません)。

(金谷晴夫記)

VI 「受精の生物学」の予約販売についてのお知らせ

日本発生生物学会編単行本第5集、「受精の生物学」が、2月中旬に刊行されます。本学会ではこれらの単行本の刊行を学会活動の一端と考えておりますので、前回同様、会員には購入の補助という形式で便宜を計ります。

- 定価3,400円のところ会員には2,500円で頒布します。
- この頒布を受けるのは会員各位1冊限りとします。
- 頒布を希望される方は、2月10日迄に同封振替用紙を用いて代金を発生生物学会事務局あてにお送り下さい。通信欄に、「受精の生物学代金」と明記して下さい。
- (振替番号 名古屋 42801 日本発生生物学会)
- 予約形式をとりますので、送金がありましてから、送本いたします。

なお、同一会員の2冊以上のお申込みや会員の紹介した方への便宜は取計りません。

日本発生生物学会事務局

「受精の生物学」内容 A5判, 約320頁

- 第1章 序 論
- 第2章 酵母の接合
- 第3章 ミカヅキモの有性生殖
- 第4章 原生動物の受精
- 第5章 先体反応と卵膜ライシン
- 第6章 受精と卵表層
- 第7章 ユニ卵の受精とエフェクター
- 第8章 受精とメッセンジャーRNA
- 第9章 受精における複合糖質の諸問題
- 第10章 カエルの受精生理
- 第11章 哺乳類の受精
- 第12章 卵着床の機構
- 第13章 受精の諸問題

VII 国際発生生物学会議についてのお知らせ

1977年8月に東京で開催されます「国際発生生物学会議」についてのCircular 2が刊行されています。これにはプログラム予定の概要の他, 出席申込み, 講演申込みの要項が詳しく通告されています。御関心のある方で, まだお持ちでない方は下記へお申込み下さい。

東京都文京区東京大学理学部動物学教室内

国際発生生物学会議 準備委員会事務局長 寺山 宏

VIII 会 員 異 動

<新入会員>

- | | | |
|-------|-----------------|---|
| 古賀 克己 | 九大・農・農芸化学・蚕糸化学 | ①発生におけるタンパク質合成系の調節機構
②カイコ |
| 小松美英子 | 富山大・文理・生物 | ①棘皮動物(特にヒトデ類)の発生 |
| 根本 心一 | お茶の水女子大・理・臨海実験所 | ①棘皮動物の発生生化学(ユニ卵の受精・細胞分裂時におけるアルギニン・リン酸・アルギニンキナーゼ活性の変化) ②バフンユニ・ムラサキユニ・アカユニ等ユニ類, イトマキヒトデ・キヒトデ・モミジガイ等ヒトデ類 |

山本佑二郎 (旧)吹田市桃山台1-1, C5-305 (旧)①水晶体の発生, 生長 ②マウス, ニワトリ
(〒565)

<住所変更>

<新>

<旧>

江口 吾朗 名大・理・分子生物

京大・理・生物物理

江村 牧人 Medizinische Hochschule Hannover

愛知県ガンセンター研・生物

Abteilung für Experimentelle Pathologie

京野 洋子 産業医学総合研究所

労働省労働衛生研究所

芥藤多久馬 自治医科大・解剖・第一講座

愛知県コロニー発達障害研究所

田中 徹哉 (旧)東京都足立区千住2-3

九大・理・生物

道端 斉 富山大・文理・生物

東大・理・動物

米田 満樹 京大・理・動物

一橋大・生物

和栗 秀一 (旧)十和田市本金崎241-8 (〒034)

北里大・畜産・家畜解剖

<退会会員>

太田 一 男 (旧)東京都杉並区下高井戸4-945

加藤 哲也 京大・理・植

林 宏 文 九大・歯・口腔解剖

成 煥 珣 晋州農科大学校

崔 林 淳 韓国延生大学校・生

Michael F. Filosa Scarborough College, Univ. of Toronto

賛助会員

三菱化成生命科学研究所

東京都町田市南大谷11号

賛助会員

和 研 薬 株 式 会 社

京都市左京区北白川西伊織町25 電話 京都 (075) 721-0491(代)

—— 科学の先端をゆく

スフィンクス印純正試薬 ——

名古屋片山化学株式会社

名古屋市中区丸の内3丁目11番4号

TEL. 971-6531(代表)

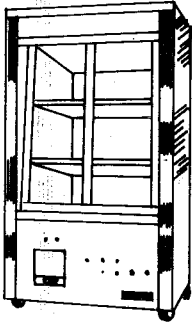
岡崎出張所 岡崎市大樹寺町字古屋敷3の1
〒444-21 電話 (0564) 21-4203(代表)

小牧出張所 小牧市大字入鹿出新田字宮前1107
〒485 電話 (0568) 73-2291(代表)

浜松出張所 浜松市常盤町282
〒430 電話 (0534) 53-3118(代表)

NK式生物研究用機器

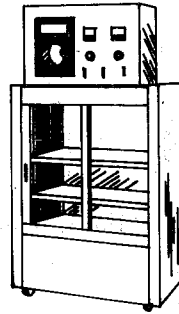
NK式電気低温恒温器(送風循環型) 高精度普及型



型式	LP-100 -S型	LP-150 -S型	LP-200 -S型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	24万円	27.5万円	30万円

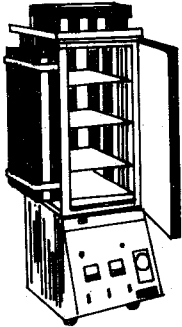
※その他のいろいろなタイプがあります。

NK式プログラム電気低温恒温器(送風循環型) 四季の温度がプログラムで自在に再現できます!



型式	LP-100 -3P	LP-150 -3P	LP-200 -3P
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	43万円	45万円	48万円

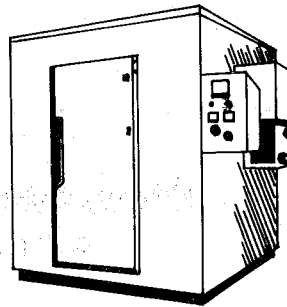
NK式人工気象器 植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派!



型式	LH-100 -R型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	温度のみ 43万円	温・湿 度付 65万円	プログラ ム付 55万円

※その他のいろいろなタイプがあります。

NK式プレハブ電気低温恒温槽 組立、移設、増設が思いのまま!

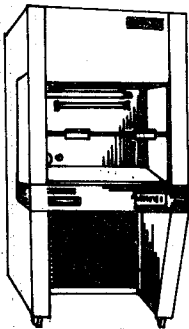


精密型

- LH型+5℃~45℃
価格1坪1,080,000円
より各種
- LP型+18℃~45℃
価格1坪1,170,000円
より各種

※詳細はプレハブシリーズカタログをご請求下さい。

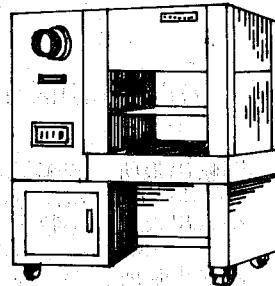
NK式クリーンベンチ(垂直層流型)



NKB-VS-850
¥750,000
NKB-VS-1300
¥850,000

NK式クリーンベンチ(垂直層流両面型)

無菌作業の能率アップに!



NKB-VW-850
¥1,000,000
NKB-VW-1300
¥1,300,000

NKS 株式会社 日本医化器械製作所

本社 〒550 大阪市西区江戸堀北通1丁目25番地
東京営業所 〒183 東京都府中市清水ヶ丘1の3小林ビル
工場 〒577 大阪府東大阪市新東町5-4番地

電話 大阪06 (443) 70712(代)
電話 府中0423 (65) 3245
電話 大阪06 (788) 1383~4